

2019年11月15日

近藤大介

[d-kondo@kodansha.co.jp](mailto:d-kondo@kodansha.co.jp)

○ファーウェイ・テクノロジーズ（華為技術）

- ・元人民解放軍技師の任正非（75歳）が、1987年に新圳で5人の仲間と創業。
- ・香港を通じた外国製電話交換機の輸入を始め、後に自社で開発する。
- ・国内市場が国有企業の壁に阻まれ、1996年に、新星ロシアに進出。
- ・現在、約170ヵ国・地域に19・4万人の社員を抱える。
- ・2018年の売上高は、7212億元（約11・2兆円）、純利益は593億元（約9200億円）。2019年1～9月の売上高は、6108億元（前年同期比24・4%増）。

○ファーウェイの4つの事業

①通信事業者向け基地局

2018年はエリクソン（29・0%）に次いで世界シェア2位（26・0%）。5G基地局で首位を狙う。

②一般企業向け通信システムサービス

「フォーチュン・グローバル500」中、211社と提携。11月11日のアリババ「ダブルイレブン」（双十一）では1秒間に55万件の決済を処理。

③一般消費者向けスマートフォン、PC

2019年第3四半期のスマホ世界シェアは、サムスン（22・4%）に次いで2位（19・0%）。アップルは3位（12・3%）。10月22日に今年2億台突破。

④クラウド事業

ビッグデータを活用し、スマートシティを世界160都市で建設中。

○ファーウェイ（ハイシリコン）の7つのコアチップ

- ・携帯電話……麒麟（Kirin）
- ・サーバー……鯤鵬（Kunpeng）
- ・AI……昇騰（Ascend）
- ・5G基地局……天罡（Tiangang）
- ・5G端末……巴龍（Balong）
- ・IoT……凌霄（Lingxiao）
- ・OS……鴻蒙（Harmony）

○5Gとファーウェイ

- ・大容量、超高速、低遅延、多接続。「4Gは生活を変えたが、5Gは社会を変える」(ファーウェイ幹部)
- ・2018年の国際特許出願件数で、ファーウェイは5405件でトップ。うち多くが5G関連。2位は三菱電機2812件、3位はインテル2499件。
- ・1G~4Gは先進国が主導したが、5Gは中国が主導？

#### ○ファーウェイの5G基地局

- ・キーワードは「超シンプル」。20kgの5G基地局を実現。他社より軽くて良質で約3割安い。
- ・11月1日、北京、上海、深圳など中国50都市で5Gサービス開始。登録者数は1000万人突破。
- ・10月から、アメリカ製品を使わない5G基地局を製造開始。すでに世界で40万件以上の5G基地局を契約。

#### ○ファーウェイの5Gスマートフォン

- ・今年2月「MWC2019」(バルセロナ)で折り畳み型5Gスマホ「Mate X」を発表。
- ・中国で8月16日に「Mate20 X (5G)」を発売開始。11月15日に「Mate X」を発売開始。
- ・他国はグーグル禁止問題で遅れる？

#### ○米中対立の4段階(中国側の見立て)

- ・第一段階……米中貿易戦争(2018年3月~)
- ・第二段階……米中技術戦争(2018年4月~)
- ・第三段階……米中金融戦争(2019年8月~)
- ・第四段階……米中軍事戦争(2020年?~)

→ファーウェイはすべてに関係している。

#### ○中国でいま言われていること

- ・中国はアメリカにチャレンジするのが10年早すぎたが、アメリカもファーウェイを叩くのが10年遅すぎた。
- ・アメリカとの対決は、長期的かつ全面的になる。
- ・世界は米中の影響国に「Decoupling」(分断)していく。
- ・アメリカとの対決は「持久戦論」で臨む。
- ・2049年の建国100周年までには、中国がアメリカを凌駕する。

→日本はどうすべきか？

